

# 日本文藝學論究

## 第七十九冊

### 目次

《シンボジウム》 特集 日本文学と《地図》	
【上代】名づけと境界線 ——上代文学における地図的思考の進展——	土佐 秀里 (1)
【中古】平安文学の「富士」のイメージ	山田 利博 (11)
【中世】具象から抽象へ ——『平家物語』巻七「忠度都落」のことなど——	野中 哲照 (17)
【近世】風光の人を感動せしむる事―俳枕・歌枕―	岡田 哲 (25)
【近代】森敦文学の《地》と《図》	井上 明芳 (31)
【総括】「図」から「地」へ―リアルな行方―	高橋 大助 (37)
【古事記】弟橘比売命入水説話の意義 ——「渡神」の考察を中心に——	滑川 未来 (41)
【放出（はなちいで）】再考 ——古記録、物語作品の事例に則して——	神原 勇介 (53)
【源氏物語】朱雀院の讓位 ——清和天皇讓位宣命との関わりから——	春日 美穂 (65)
時間表現「夜をこめて」の再検討 ——小林論への疑問を起点にして——	吉海 直人 (75)
【耳川合戦図屏風】と『平治物語絵巻』「六波羅合戦巻」 ——粉本の視点から——	伊藤 悦子 (87)
【玉藻の草紙】と犬追物起源譚	伊藤 慎吾 (99)
森敦「われ逝くものごとく」研究 ——フレイズの特徴——	前田夏菜子 (113)
【肉付き面】モチーフの変容	西座 理恵 (125)
修験と儒学者の海尊伝説 ——下北半島および一東和尚をめぐって——	三田 加奈 (137)
國文學會通信	
彙報	
編集後記	